

トルドー首相が訪米 カナダの統一に確信

米国議会で演説する
トルドー首相(AP)

トルドー首相は、二月二十一日から二十三日にかけて米国を訪問し、カーター新大統領と会談したほか、カナダの首相としては初めて米国議会で演説した。カーター大統領との会談では、世界経済、核物資や核装置などに関する安全保障（セイフガード）、軍縮、人権問題などの国際問題、アラスカからカナダを経由する米国本土へのガス輸送管、米加間の投資および貿易、自動車協定、海城および漁業水域の設定などの二国間問題について意見を交換した。

また米国議会の合同会議で行った演説では、カナダと米国の特別な信頼関係、少数民族の保護や文化的多様性、あるいは順応の必要性などにおいて果たした米国の役割や指導性などを高く評価したあと、ケベックの独立運動とカナダの統一問題を中心に、カナダ政府の考え方を述べた。以下、同演説からの抜粋——。

（米加）両国の友好はきわめて基本的なもので、長い間他の諸国から進んだ国際関係の手本とされてきた。カナダのいかなる指導者といえども、この友好を意

識的に弱めることは有権者が許さない。また、カナダのいかなる指導者も——もちろん私自身も——それを欲しない。端的にいつて、何百万ものカナダ人およびアメリカ人が、一世紀以上もお互いを知り合い、好き合ひ、そして信じ合っ

てきたことを、われわれの歴史は記録している。

カナダ人は米国から孤立して暮らすことはできないし、そうしたいとも思わない。われわれは米国から刺激を受け、米国の活力から恩恵を受けてきた。

米国は、その歴史を通じて、驚くべき先見性を発揮した数多くの有能な指導者に恵まれてきた。ジョージ・ワシントン「の次の言葉は想起するに値しよう——」諸君の国家的団結が諸君の集合的および個人的幸福にとっていかに大切であるかを正しく判断することは、きわめて重要である」

われわれは、男性も女性も、人類にとって唯一の希望は肌の色や文化や信条の異なるいろいろな人々が平和に共存しようという自発心である、という知識から逃れることはできない。そういうときにあつて、米国はワシントンがたてた高い基準を忘れず、少数民族の保護や、多様性の豊かさや、融和の必要性に対する信念をうたっている。

自由、あるいは幸福の追求というものは、アメリカ人にとって理論的観念ではなく、捕えがたい目標とも考えられていない。米国はそのひとつひとつを力強く求め、自由の産物である喜びと創造力をすべての人類と分かち合つてきた。

十七世紀にさかのぼる根をもつ国内的緊張に直面するカナダは、米国が現世代において人種的緊張を緩和し、法的権利を拡大し、国民すべてに機会を与えるに際してみせた知恵、規律、そして忍耐から、学ぶべきことが多い。

連邦が結成されてから百年間における（自由で平等な国家を建設するという）わ

れわれの努力は、まだ完全には実を結んでいない。われわれは個人的自由と人権尊重の社会を創設し、また米国に近い経済生活水準を達成した。しかしながら、フランス系カナダ人が完全に平等で、自分たちが継承した豊かな文化を発展させることができるという状況は、今だにできていない。今日のわれわれの中心的問題の根源はここにある。ケベック州民の一部がカナダを脱退して、自分たちの国を作るべきだと考えるのは、このためである。新しく選ばれたケベック州政府はこの少数派の考え方を反映する政策をとっている。ただし、（政権をとった）ケベック党は、選挙運動では「健全な政府」を訴えたのであつて、「カナダからの分離」について付託を求めたわけではなかつた。

二つの活発な言語グループを融和させるというのは、色あいの違いはあれ、連邦成立以来、カナダ政府の一貫した政策である。その理由は明白だ。ケベックでは、人口の八割以上が第一言語または唯一の言語としてフランス語を話す。カナダ全体でいえば、フランス語だけしか話さない人が国民の五分の一近くを占める。こうして、代々、二言語、多文化の自由で平等な国が建設できるんだ、ということが信じられてきた。

私はこれが実現可能だと、確信している。私は、カナダの統一が挫折することはない、ときつぱりと、確信をもつて申し上げられる。

そのためには、いくつかの点でわれわれの態度を変える必要がある。つまり、言葉の壁を越えて、お互いをもつと理解し合わなければならぬ。英語系カナダ人もフランス語系カナダ人も、多様性の

もたらず豊かさをよりよく認識し、それによって起こる問題にあまりいらいらしないことである。六百五十万のフランス語系カナダ人が、カナダ連邦を二億二千万の英語系北アメリカ人（カナダと米国を含む）の中に埋没しないための最大の防壁だと見ることができるようになるために、憲法を一部修正する必要がある。

一億二千万対六百五十万という数字自体、フランス系カナダ人の不安感を端的に現わしている。しかし、（ケベックが）分離したからといって、この実体は変わらない。むしろ、より明確になるだけだ。

さらに、ケベックの分離は、いかなる形においても、カナダ中に散在する数多くの文化的少数民族の自信を高めることにはならないだろう。これらの少数民族は、何十年にもわたつて、自分たちの文化やアイデンティティを保持するよう奨励されてきた。ケベックが突然離反すれば、われわれの複数民族国家の夢は破れ、文化的モザイクは破たんし、文化的少数民族を守るというカナダ人の決意を鈍らせることになるだろう。

これほど大きな問題に目をつぶるわけにはいかない。問題は、われわれがこれまでに作り上げた諸制度によって打開できる。これらの制度は、ケベック出身の私にも、また他州の国民同胞にも等しく所属する。これらの制度は民主的に構成され、そしてそのメンバーは自由に選ばれており、国民の意志に応じていろいろな変更を加えることは可能である。

カナダは、偏見と恐怖のない、理解と寛容に満ち、個性と美を尊重し、変化と革新に対して受容的な社会を形成しつつある、と私は確信している。